

観光客150万人目指す

基本計画
策定 袋田の滝、魅力向上へ

観光立町を目指し、大子町は観光振興基本計画を策定した。本年度からの5カ年計画で、通年型観光コンテンツの開発や受け入れ体制の整備、広域連携促進などの基本方針を設定。各方針を具現化するため、重点

取り組み項目を定め、それぞれのアクションプランを決めた。こうした取り組みにより、計画最終年度の2022年度は観光客150万人（2016年度比33%増）、宿泊者11万9000人（同50%増）、外国人観光客4万6000人（同280%増）を目指す。

同計画は将来像に「町の重点資源である滝、山川、食、温泉を活用、観光客や

事業者、住民にとって、実りある観光立町を目指す」と示した。このため、①観光客を増やす②観光消費額を増やす③観光振興の取り組みを継続する―を目標に、柱となる基本方針などを設定した。

通年型観光コンテンツとしては、袋田の滝・周辺の魅力向上、特定目的型旅行者向けのコンテンツ開発・磨き上げ―に注力する。特に袋田の滝は「恋人の聖地」に選定されており、魅力度をアップするため女性向け動画制作、アウトドアなど自然を生かしたメニューを開発する。

体制整備は、町と町観光協会が中心となり、関係団

体の連携強化を図る。季節やテーマごとに周遊を楽しめる仕掛けづくり、新たな土産品などの開発、町民の情報発信力強化、外国人目線の観光地に取り組み。

プロモーションの強化は、県央や県南西、隣県向けを重点にリピーターを創出。自然や食、温泉など特定目的型旅行者への意欲喚起にも本腰を入れる。フィルム・コミッションの積極的な活用で、ロケ地を誘致する。

このほか広域周遊観光を目指し、他市町との連携を図り、茨城国体や東京五輪・パラリンピックと連動した誘客、周遊策を検討。キヤンペーンなどへも積極的に参加する。

計画の各アクションプランの実施スケジュールも策定。宿泊者や外国人観光客の大幅な増加を図る。